

# 創作的なスキルを育むダンスの事例的研究

保健体育科 菊地孝太郎

## 1 単元（題材）名

「創作ダンス～即興表現と作品づくりを通して～」

- ・多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化をつけて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ることができる。
- ・ダンスに積極的に取り組むとともに、互いのよさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

## 2 単元（題材）の目標

## 3 単元（題材）の評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 技能	エ 知識・理解
単元の 評価規準	互いの良さを認め合ったり、イメージを共有したりして、積極的にダンスを通じた交流ができる。	キーワード（ダンスの要素）と関連づけてグループや自己の課題について、主体的に追求・表現していくことができる。	イメージを捉えて、 1 即興的に表現して、 2 <u>ひとまとまりの表現にして、踊ることができる。</u>	ダンスの要素や表現技法の効果について理解できている。
学習活動に即した 具体的な 評価規準	a 観察 b 学習カード	a パフォーマンス評価 & ルーブリック (映像観察) b 学習カード c 作品鑑賞カード	a パフォーマンス評価 & ルーブリック (映像観察) b 学習カード	a 学習カード b 記述式テスト

## 4 指導観

### (1) 単元（題材）観

中学校学習指導要領解説（2008）では、『ダンスは「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」で構成され、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。』とされている（p.118）。特に中学校では、「イメージを捉えたり深めたりする表現、伝承されてきた踊り、リズムに乗って全身で踊ることや、これらの踊りを通じた交流や発表ができるようにすること（同、P.118）」が求められている。本単元は上述したダンス領域の中でも、創作ダンスに特化した内容を扱い、「多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化をつけて、1 即興的に表現することや、2 変化のあるひとまとまりの表現ができるようにすること」を主なねらいとして位置づけている。また本単元は、即興表現の時間とグループ創作の時間（ミニ発表の場）を毎時間設けている。単元を通して、即興表現やひとまとまりの表現をからだで気づいていくヒント、あるいは、教員が一貫した指導を行う手立てとして、各授業で扱うダンスの要素（キーワード）を提示し、生徒と共有していくこととした。

さて、国際化・多様化・ネット社会化が叫ばれる昨今、豊かなコミュニケーション能力の醸成が重要視されており、ダンス領域はこの力の養成に多大な可能性を秘めているといわれている。また、ダンス教育が人格形成の上で教育的効果が大きいことも明らかにされている（松下，1994）。しかし、学習者側に「ダンス嫌い」が多いことや、踊ることに対して消極的な様子も報告されている。

その要因を指導者のダンスに対する抵抗感や羞恥心に求めている研究（酒向ら,2014・～）も多く、私自身ダンス実践を行っていくうえで、多様な抵抗感を覚えていた。しかし、ダンスが内包する教育的効果の可能性を強く感じ、ダンス領域に関する専門性や素養を涵養すべく、本単元の実践を決意した。特に、教員として生徒とダンスの魅力や要素を繋ぎ合わせていくために、教員自身の身体を教材の一部として捉え、先述した専門性や素養を身体化させ、生徒への豊かな働きかけ方を追究していくことを本研修の最大のねらいとして位置づけている。

## (2) 生徒観

体育では、男女共修の授業を通して、性差や技能差に拘ることなく、自己や集団の運動課題と向き合い、深く思考する姿の探求を目指してきた。例えば、1学期に実践した「アルティメット」の単元では、off the ballの動きに着目して、フライングディスクの教具特性（浮遊性など）を活かしながら、ゲームへの参加とチームへの貢献を軸に学びを深めていった。特に、ゲーム状況を共有することを主眼とした作戦盤の有効的な活用を通して、建設的な学び合い方を学習した。また、2学期の「マット運動」では、「順次接触」と「伝導」を学習内容に据えることで、生徒と学習内容を明確に共有することで指導と評価と学びを一貫していくことを大切にして実践した。その結果、マット運動が苦手だとする生徒も意欲をもって活動に取り組んでいる様子がアンケートの結果等からみられた。（単元前後に行ったアンケートからマット運動に対して肯定的な態度・意識の高まりを読み取ることができた。また、4人の協働実践者ともトライアングレーションを行い、手立ての有効性について、議論を重ねるとともに、撮影した生徒の肯定的な姿の変容についても合意してきた。）

本単元では、単元に入る前の実態調査として、ダンス領域に関するアンケートを行った。その結果、9割以上の生徒がダンスの学習に対して未経験と回答している。また、ダンスに対してネガティブに捉えている内容が散見された。つまり、これらの結果は、音楽やテーマに沿った即興的な表現活動に対して、過度な恥ずかしさや抵抗感を感じたり、その結果活動に対して消極的な姿が生徒にみられたりする可能性を示唆している。

## (3) 教材観

本単元では、創作ダンスを扱い、その中でも『即興表現』に注目している。しかし、踊ることに戸惑う生徒や既存のメディアなどで取り上げられているリズムダンスにイメージが先導されている生徒がいることが予想される。また、「より高度な作品づくりを目指したために、つくることに追われ、最も原初的な踊る快感に至らず終わっていきらう」（三浦、1982）もあると報告されている。そこで、単元序盤では、踊ろうとするのではなく、踊りに成っていく過程に身を置く機会を設定し、その過程に浸ることでダンスに慣れていく体験を積み重ねていく。この積み重ねを通して、ダンスの素朴概念（かっこよく踊らねばならない、ステップができないといけないなど）を崩し、創作ダンスに前向きに取り組める体や態度の素地を形成していくことを前半部の主なねらいとしている。その際、瞬間瞬間の感じ方やイメージを表現していくことを大切にし、単元全体を通して生徒と共に創作ダンスの要素を理解し、それを身体で経験していく過程を重視した展開に留意していく。

さらに、本単元では高度な作品づくりではなく、キーワードに基づいて踊りの要素を体感したり、そこからイメージやダンスの動きの感じを広げたり、深めたりする活動を重視する。以上の活動や経験に基づき、表現行為それ自体の意味やプロセスを重視する『即興表現』の可能性を生徒とともに探求し、そのときどきで実感するからだの醸成をねらいとする（村田,1987・1998）。

具体的には、1時間ごとに多様な技能（題材・テーマ）の一つを取り上げて、1時間完結学習（表1）を積み重ねていき、単元を通じて踊る力（表現力）だけでなく、作る・構成する力（創作力）

やよい動きを見分ける力（鑑賞力）など、作品創作に必要な技能を系統的に学習させていくことを目指す。特に、即興表現のクリエイション・スキルについて調査・分析した細川ら（2008）が明らかにしている※「身体イメージ能力」と「表現的動きを創出する能力」の育成に注力したいと考えている。

表1 1時間完結学習（モデル）

分	学習活動（教員主導⇒生徒主体）		ねらい
0	踊る	◆集合・出欠確認・前時の振り返り ①ダンスウォームアップ	心と体をほぐす（課題の動きの予習を含む）
10	創る	②課題の理解 教員と一緒に「ひと流れの動き」を経験する ※教員のイメージ→生徒のイメージへシフト	ひと流れの動きの表現性を理解する極限の動きへの挑戦 イメージと動きを多様に変化させる イメージと動きの連合（デッサン）
20		③イメージと動きの共有 2～3人でイメージ×動きを模倣	イメージと動きのアイデアを共有する 互いを認め合う
30		④グループ創作 気に入ったイメージ×動きを選ぶ 動きを発展させて小作品にまとめる	イメージと動きの探求
40		⑤見せ合いと意見交流 ◆まとめ・学習カードへの記入	互いの良いところを認め合う 表現効果の確認と学習評価 次時への課題をもつ
50	見る		

全国ダンス・表現運動授業研究会（2011）を参考に加筆・修正

## 5 単元（題材）の指導計画と評価計画（8時間扱い）

時間	目標	キーワード	学習内容・学習活動	学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法）
第1時	・単元の流れと学習の約束を理解する。 ・ダイナミックに体を動かすことの大切さに気づく。	ダイナミック	シンプルなりズムにのって表現すること	・イメージを共有したりして、積極的にダンスを通じた交流ができる。【人間性：観察（ループリック）】
第2時	・ものに意識を集中させ、ダンスの既成概念を変え、エネルギーに表現する。	ひと流れ	しんぶんしの動きからひと流れの表現を体験すること	・しんぶんしから表れるイメージを捉えて、即興的に表現して、ひとまとまりの表現にして、踊ることができる。【表現：観察（ループリック）】
第3時	・思いきり走りピタッと止まる動きの一連から、たくさんイメージを見つけ、短い作品づくりにつなげる。	メリハリ	対極の動き(走る-止まる)とイメージの産出	・ひと流れとキーワード（メリハリ）を関連づけてグループや自己の課題について、主体的に追求していくことができる。【思考判断：学習カード】 ・ひと流れから表れるイメージを捉えて、即興的に表現して、ひとまとまりの表現にして、踊ることができる。【表現：観察（ループリック）】
第4時	・ダイナミックに集団で空間の変化を工夫し、みんなで動くおもしろさに気づく。	群の変化	集団の動きを手がかりにした空間の変化や表現の集団的特性（集まる-とび散る）	・ひと流れとキーワード（群の変化）を関連づけてグループや自己の課題について、主体的に追求していくことができる。【思考判断：学習カード】 ・ひと流れから表れるイメージを捉えて、即興的に表現して、ひとまとまりの表現にして、踊ることができる。【表現：観察（ループリック）】
第5時	・大小、強弱や速度など、表したい部分を強調して表現できる。	デッサン・デフォルメ	スポーツ場面を通じた小作品づくり（表現を強調して）	・表れたイメージとキーワード（デフォルメ）を関連づけて表現し、グループや自己の課題について、主体的に追求していくことができる。【思考判断：学習カード、観察】

第6時	・体の限界まで使うことを意識して、「ひと流れ」の速さのメリハリを工夫して表現する。	極 限	ゆっくり伸びる-ゆっく り縮む×2 走る-素 早く伸びる-素早く縮 む (ひと流れ)	・ひと流れとキーワード (極限) を 関連づけてグループや自己の課題に ついて、主体的に追求・表現してい くことができる。【思考判断：学習 カード】 ・ひと流れから表れる イメージを捉えて、即興的に表現し て、ひとまとまりの表現にして、踊 ることができる。【表現：観察 (ル ーブリック)】
第7時 (本時)	・即興的なデフォルメを通 して、身近な生活や日常動 作がダンスの動きに発展で きることに気づく。	デッサン・ デフォルメ	表現者の人数の変容と 即興表現を通して、イ メージを広げ、繋げて いく。	・表れたイメージとキーワード (デ フォルメ) を関連づけて表現し、グ ループや自己の課題について、主体 的に追求していくことができる。 【思考判断：学習カード、観察】
第8時	・小グループで多様に日常 の動きのイメージを広げ、 その状況の場面をひと流れ にして踊りきる。		作品表現と鑑賞活動 単元全体を通したふり かえり	・鑑賞活動を通して、作品のよさや 見る視点を養うとともに、互いの良 さを認め合ったり、作品や表現に対 するイメージを深めたりすることが できる。【人間性・表現：鑑賞カー ド】

## 6 学びの足跡

### 【1時間目】

初めての創作ダンスを経験する生徒も多かったため、特に体で表現する喜びを味わえる内容に留意した。導入部では、本授業の約束事や見通しについてなど、オリエンテーションを行い、本単元に臨む視座を生徒と共有した。オリエンテーション後、「8・8・4・4・2・2・1・1・1・1」のリズム (※) に合わせて構成した動き (「足踏み (間奏部)」「弾みながら頭上で手拍子→床を叩く (※)」「体も使って手を大きく左右に振る (※)」「サイドステップ&方向転換で手拍子 (※)」「前後への移動&方向転換で手拍子 (※)」「弾みながら顔前で両手を振る&コーンに集まり弾ける (※)」: 曲は D51/NO MORE CRY) を教員が舞台上で試技し、その動きを真似る時間を設けた。総合すると体で表現することに対して、ポジティブな生徒の様子が多くみられた。一方で、リズムに体を合わせることが困難な生徒も見受けられ、今後単元を通して注視しなければならない抽出生徒の参考とした。後半部では、前半部のリズムに合わせてグループ (4~5人) に分かれて小作品づくりを実施した。

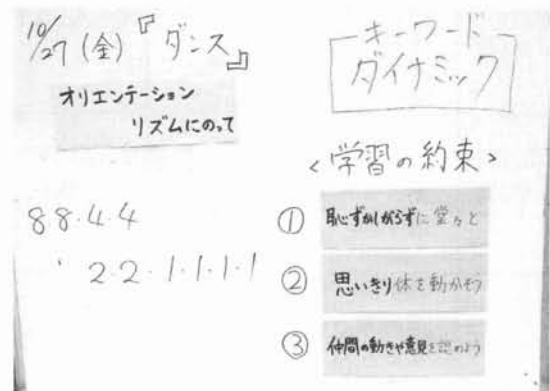


図1 一時間目板書

### 【2時間目】

「しんぶんしになりきろう!」をテーマに、二人組での活動の中、パートナーが動かすしんぶんしを模写したり、そこからイメージできる動きを表現したりしようとする姿がみられた。しんぶんしそのものになりきる生徒もいれば、しんぶんしの動きからペアでイメージできる感覚を広げ、しんぶんしを持たずに表現する様子も多少みられた。なお、後半部では前半部ペアで感じたり、広げたりしたイメージを作品づくりにつなげ、それぞれのペアが作品に込めた感じをタイトルに込めて板書させた (図2)。前時に比べると、思いきり体を使おうとする姿が増え、より表現することに肯定的な学習者の様子を感じ取れた。

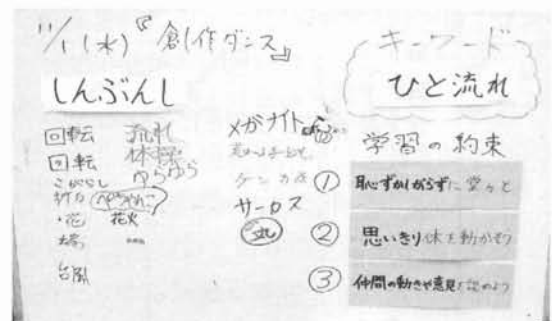


図2 二時間目板書

### 【3・4時間目】

3・4時間目はこちらで示したひと流れの動きに沿って、イメージを膨らませる活動を行った。最初のメリハリのある動きやダイナミックな表現を意識して、生徒とともにひと流れの動きの確認を一緒に表現しながら行った。その際、太鼓のリズムに応じて動きを変化させるような指導を行った。ここでは特に、太鼓の鳴らし方や後半3つの止まり方の工夫（「全て違ったポーズで止まってみよう！」など）、ひと流れの最後の止まり方、前回のキーワードのダイナミックな動きを意識することについて、授業の所々で生徒をフリーズさせながら指導を行った。その際、動きの広がりや即興表現の世界を生徒たち自身で広げていくように発問をかけながら支援した。

ひと流れの確認後、グルーピングを行い、各グループでブレインストーミングからイメージを共有させた上で、表現したいタイトルを考えさせた（図3参照）。

### 【5時間目】

ひと流れを「スポーツの印象に残るシーン」とし、3, 4時間目に比べるとダンスの形を生徒に委ねた活動を行った。授業前半部ではキーワードである「デッサン（その事物の特徴を捉えて表現すること）」について触れ、即興的にスポーツをデッサンする活動を行った。どの生徒も思い思いのスポーツ場面を身体で表現し、その特徴を良く捉えて表現していた。デッサンに関する活動後、「デフォルメ（印象的なシーンを強調する技法）」の具体例について共有した。具体的にはデフォルメされた絵を掲示したり、実際にスローモーションで教員が動くことにより、表現の効果を見る側として生徒に体感してもらったりして、キーワードを周知させた。そしてこのキーワードと関連づけて、作品づくりに臨むように指導した。作品づくりの様子としては、普段体験しているスポーツを表現するという

ことで、多くの生徒がその特徴を捉え、実際に体を動かしながら作品づくりに臨む姿勢がみられた。また、空間を大きく使って表現していく様子は随所にみられるようになっていた。ただし、いざ作品になるとデフォルメに課題がみられた。例えば、グループ内でデフォルメしたい部分がズレていたり、共通理解できていないため何を強調しているのかわからなくなったりしているグループが散見された。個の表現の課題としてはゆっくりと大きくギリギリまで表現することを苦手

としている姿を授業者として感じた。この要因は、生徒の授業の姿と学習カードの比較から求められる。実際の授業ではゆっくりとした表現でダイナミックに動いているにもかかわらず（映像で確認）、そのグループの学習カードの内容をみると、ダイナミックに思いきり動いていないことを課題とする内容がみとれた。つまり、子どもはダイナミックさを、素早く大きく動くことや空間を大きく移動することのみを指して認識している様子が見受けられ、表現の枠組みを狭めて理解していると解釈された。次時では以上の課題も踏まえて、ひと流れの中で緩急をつけて表現することをテーマに授業を構成することとした。

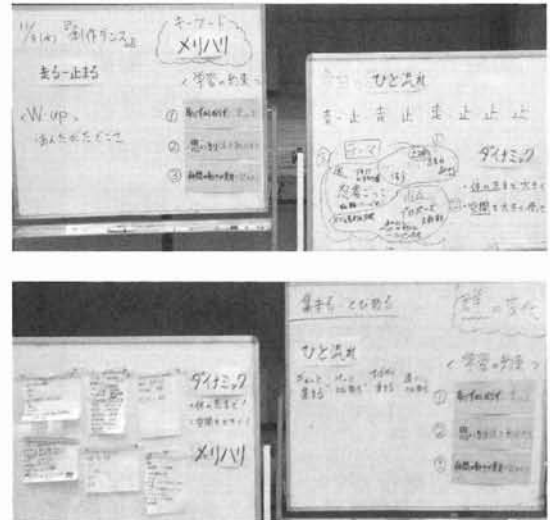


図3 三（上）・四（下）時間目板書



図4 五時間目板書

## 【6時間目】

前時を踏まえて、本時では「極限（体をめいっぱい使った表現技法）」をキーワードとして取り上げ、実践を行った。ゆっくりとした動きと素早い動きのメリハリを捉えるようなひと流れ（「ゆっくり伸びる・縮む—走る—急に伸びる・縮む」を組み合わせた動き）を作品づくりの基準におき、そこからイメージを広げるように指導を行った。特に、前半部ではゆったりとした動き（リズム）の中で、メリハリを持った動きの強弱を意識するように授業を展開した。生徒から出たイメージとタイトルは図5（時間、輪ゴム、花、人類の進化、忍者など）の通りであった。

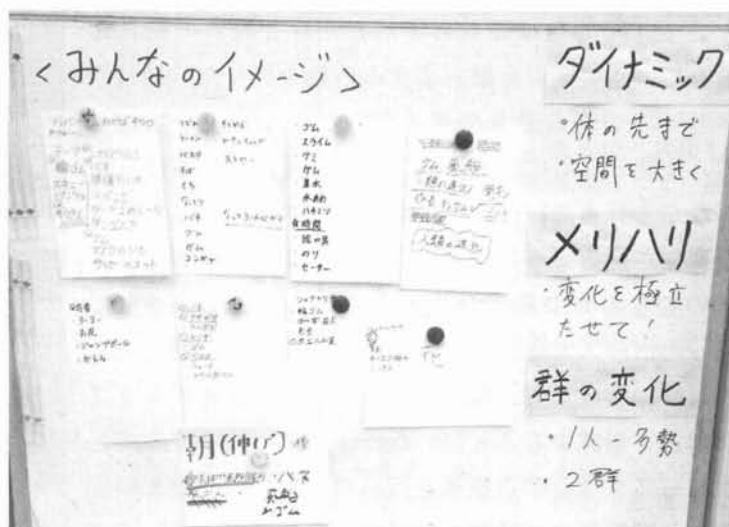


図5 六時間目板書

## 【本時までの成果と課題】

青木（1989）は「1）クラスの全員を学習の中に引き込む授業、2）子どもたちが学習に集中している授業、3）指導（学習）が学力化していくという手ごたえの感じられる授業、4）その指導（学習）が学力として積みあがっていく授業、5）子どもたちめいめいの学習について、その子らしいオリジナリティがうかがえる授業」が良い授業の条件だと提起している。本時を控えた現在（6時間目が終了したところ）、上記項目の3）～5）については授業者として、実感を覚えることがある。回を重ねるごとに創作表現に意欲的な姿や、学習の約束事に関する自己評価の上昇傾向などから、ダンスに対する素朴概念は多少崩している様子が伺える。また、共有し難い各々のイメージについて、単元のはじめでは一方的に意見を押し通す生徒の姿もみられたが、単元を通して他者の意見も聞きつつ、合意形成する姿が散見されてきた。さらに、これまでのダンスの要素（ダイナミック、メリハリ、群の変化（カノン・ユニゾン）、デフォルメ、極限）を使い分ける姿が見受けられるようになるとともに、観察する視点を具体的にもつなど、創作表現する力だけでなく観賞する力が本実践の観察と学習カードの内容を通して身につけてきたと、授業者として感じている。しかし、1）・2）については課題を感じている。意見を伝える生徒と消極的に受け入れる生徒の表現格差が表面化したように感じている。表現活動に一步引いてしまっている生徒をどのようにして、学習に引き込むかが課題であり、上記のような状況がないか、常にアンテナを張って観察しつつ、生徒たちの創作活動へ柔軟に介入し支援していく姿勢を大切にしたい。

## 7 本時（全8時間中の第7時間目）

### (1) 本時の目標

- ・即興的なデッサン、デフォルメを通して、身近な生活や日常動作がダンスの動きに発展できることに気づき、これまでのキーワードに倣い、積極的にひと流れの表現を工夫することができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	学習活動に即した具体的な評価規準【評価方法】
導入 8分	0. 学習カードから前時までの振り返りを確認する。 1. ダンス W-UP ・「8 8 4 4 2 2 1 1 1 1」のリズムに合わせて踊る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書でこれまでの学びを明示しておく。</li> <li>・これまでのより良い姿を生徒と共有する。</li> <li>・リズムにのるように促す。</li> <li>・ウォームアップが目的のため、単純な動きの繰り返しで大きさに教師が生徒とともに動く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムにのって積極的にW-UPに取り組んでいるか。【観察 ア a】</li> </ul>
展開 32分	2. 学習課題の身体化 (1)学習課題を確認する。 ・今日のテーマを理解する。 「日常のわたし～身近な生活や日常動作を手がかりに～」 ・キーワードを確認する。 「デフォルメとデッサン」 ・グループングを行う。 ・グループ毎に座ったまま簡単なデッサンを行う。 (2)4.5人組で動いてみる（トレイン） ・先頭の人はいち早く日常動作を入れながら表現し、それ以降の人はその動作を真似しながら移動する。  3. イメージや日常動作を出し合う。  4. 書き出したイメージから1つのタイトルをつけて小作品を創る。（曲は Monofunty 【無機質でクールな音楽】 <a href="https://youtu.be/Ci7BU_ZWSW8">https://youtu.be/Ci7BU_ZWSW8</a> :2017年11月22日視聴ダウンロード)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4、5人グループになり、座らせる</li> <li>・普段わたしたちが生活する中での動きや今朝の様子などについて発問をかけた後、実際にその場で簡単な動作でデッサンしたりすることを通して、次の活動（トレイン）の取組みに対してつながりをもたせる。</li> <li>・人だけでなく生活用品になりきっても良いことを共有する。</li> <li>・トレインでは朝起きてから学校へ行くまでの動作に限定することで、普段即興が苦手な子の動きの手がかりとする。</li> <li>・トレインではリーダーと全く同じではなく、高さや方向、大きさも変えて感じながら動いても良いことを伝えることで、デフォルメすることへの課題意識をもたせた活動とする。</li> <li>・活動中はデフォルメしている生徒を具体的に褒めたり、先頭で即興表現することに戸惑っている生徒に周囲をみるように促したりすることで、学習を支える。</li> <li>・実際に表現したもの以外にもイメージを出してもよいことを伝える。</li> <li>・イメージが出ていないグループには、普段の生活を振り替えらせる。</li> <li>・多くのイメージが出ているグループを価値づける。</li> <li>・多くのイメージを取り入れすぎているグループにはポイントを絞るように働きかける。他方、少ないグループには、イメージを広げたり、深めたりするように働きかける。</li> </ul> <p>&lt;作品づくり・観察場面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考え込んでいるグループに対しては、どうして停滞しているのか観察解釈し、それに応じて以下のような発問をかけ、支援する。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>①動きながらイメージを出し合ってみたら？</li> <li>②いまの段階のひと流れを見せてくれる？</li> <li>③どんなところをデフォルメするの？</li> <li>④体いっぱいメリハリを表現できるといいね。</li> <li>⑤もっとダイナミックにできる？              など ・これまで行ってきたダンスの要素と関連づけて、動きや表現の広がり、深まりに向けたアドバイス等を行う。              ・デフォルメする前後の文脈の表現にメリハリをもたせるように留意する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単なデッサンに対して自分なりに積極的に表現しようとしている。</li> <li>・【観察 ア a】</li> <li>・トレインの先頭となっている生徒は、テーマからイメージできる動作を取り入れ、即興的にデッサンすることができている。</li> <li>・【観察 イ a】</li> <li>・先頭以降の生徒は、デッサンされた動きを表現したり、デフォルメしたりして活動に積極的に参加している。</li> <li>・【観察 イ a】</li> <li>・仲間の意見を認め合い、テーマやキーワードに沿ったタイトルやイメージを出し合い、積極的且つ肯定的に交流している。</li> <li>・【観察・用紙 ア a b】</li> <li>・仲間とイメージを捉えて、即興的に表現したり、ひとまとまりの表現にしたりして、小作品づくりに貢献している。</li> <li>・【映像観察・学習カード ウ a b】</li> </ul>
まとめ 10分	5. リハーサルを行い、今できている段階のひと流れをグループ毎に確認する。 6. 授業の振り返り・学習カードへの記入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の発表に向けた用紙を配布し、放課後までに提出させる。</li> <li>・学習カードに本時の振り返りをさせる。</li> </ul>	

## 8 単元を通じた成果と課題

### 【成果】

#### 「ダンス領域に対する学習者の好感度の高まり」

単元を通して学習者の取り組む姿や学習カードの肯定的な変化が見受けられた。例えば、ダンスに対してマイナスな姿勢であった A のコメントの変化に注目すると「ダンスと聞いて小学校でのイメージから乗り気ではなかったが、自分たちでダンスを一から作り出し、表現するこの授業ではとても愉しめた! 2 年生でもダンスしたいと思った!」。また、そのような変化は対象とした生徒全体に対して 75% が抱えていることが認められた。一方、実践前から意欲的なダンス経験者の学習者のコメントをみても、本実践を肯定的に捉えている様子が明らかであった。以上のことから、学習者の得手不得手にかかわらず本実践を肯定的に捉えていることが示唆された。

#### 「即興的に表現できる身体の涵養」と 2 「小作品づくりを通じた汎用的なスキルの育成」

本単元（創作ダンス）の指導計画を策定するにあたり、最も重視したことがコミュニケーション能力の育成であった。そのためこの領域におけるコミュニケーション能力とはなにか、そのあり方、高めるための方法論などを再度考察するとともに、コミュニケーション能力育成を含むダンス領域における関連資料を収集し、分析した結果を今後に生かす方策について検討してきた。

ダンス領域における教材観はややもすればその評価規準に基づく困難性に埋没しがちである。しかし、動きを創出する過程で仲間との交流を重視し、個々のイメージ表現を大切にするなど、生徒の動きの見取りからその内面で起きている感情をどう把握し、言語化した上でイメージを真似でなくデフォルメしたものを導き出す手立てを工夫してきた。動きの真似ではなく、イメージを身体で表現するための手立てを散りばめることで、ダンスに向かう態度を支え、自分たちでイメージを即興的且つ柔和に探究していく姿勢を育むことができた。さらに一時間完結の授業を組み合わせることで、各時間に身体に馴染ませてきた創作的なスキルの転用を、子どものダンスを創作していく様子から確認することができた。これらの創作表現に関する身体の涵養について、専門家 2 人を交えたトライアンギュレーションから確認することができたことは本実践の成果であったと捉えている。

### 【課題】

#### 「授業における構造的枠組みの把握～点から場面そして全体へ」

教室という空間と異なり、体育の授業における空間はそれだけで意味を持つ。特に本単元の場合にはその意味が大きくなることを考え、そこへの意識をもっと高める努力が必要であった。教師対全体の時、教師対グループ、教師対個人のように構成が変わっても同様である。本単元では空間は劇場ととらえてよく、生徒に空間への意識を持たせる工夫が必要といえる。場としての構造から内容的に構造化した、プレ実施（準備）－予演（リハ）－本番（講演）的な構造を企画して生徒に発表したい欲求を高めることが創作の意欲喚起につながると捉えられ、生徒の様子に応じた構造の変化にも対応していく必要があった。

#### 「イメージ共有の揺さぶり引き出し方について」

学習テーマである「日常のわたし」からデッサンを通じてデフォルメしていく過程で定型への回帰がどうしても避けられない場合が多くなる。定型に逃げ込んでおけば安心であり、一般化できるからであると考えられる。そこへの壊しの工夫が量的にも質的に必要であった。例えばデッサンする過程でステップアップしてゆくための道筋を示すことなどが挙げられる。言語による指導はもちろんであるが、動きの導出のようなヒントがたくさん用意してあるとよかったのかもしれない。並行して生徒の創出していく視点を大胆にずらす工夫も必要であった。その動作の主体から客体であるモノや対象になりきることやその行く末に想像を膨らますことなど手掛かりは数多いのでそうしたことの引き出しを作っていくことを実践に組み入れていきたい。



「ダンステクニックと雰囲気づくり」

生徒は何気ないところに気づいていることが多い。些細な動作一つに生徒は魅せられる。そこで教員自身がダンスへの造詣を深め、実技を研鑽することで、生徒に刺激を与えるテクニックとダンスって楽しいと思わせる雰囲気づくりも今後重要であると捉えている。創作ダンスだけでなく、現代的なリズムのダンスなど、ダンス領域を幅広く指導できる能力を教員自身も今後身につけていく必要があると感じた。

9 注釈

※ 育みたい資質と能力

【クリエーション・スキル】（細川ら, 2007）

(1)身体イメージ能力

- ① 即興の際には、身体に働きかける刺激（コンセプト）を設定する。
- ② 即興では、頭で考えず、自分の置かれた場を（で）身体で感じて動くよう、指導する。
- ③ ①②を豊富に経験させることにより、外界とのコミュニケーションから生まれる身体イメージを感じることでできる身体を育てる。

(2)表現的動きの創出能力

- ① 作品化に当たっては、作品の中に即興で得た要素を知識（学んだスキル、分かる・分からない）に照らして組み込むのではなく、即興で気に入ったコンセプトの中で、動きをいかに自由に、自然に膨らませるか、を指導する。
- ② できた動き・作品について振り返り、自分自身のクリエーション・スキルを追求するよう、指導する。

10 資料

表2 創作表現の題材・技能一覧

テーマ	題材例	主な運動（表現）の技能	創作の技能	主なDKW
身近な生活や日常動作	生きている地球…地殻変動・気象	具体的事象の描写・表現 模倣動作・表現	主題を見つけ対象の観察からそのものの特徴（動き・イメージ）を捉えて体の動きで表す	<b>デッサン</b> そのものの特徴を捉えてすぐに表現する
	野生動物…動物・植物	特徴的シーンの抜き出し		
	スポーツいろいろ…動作・状態	動きの変形、誇張した表現		<b>デフォルメ</b> 動きを変形して特徴を強調する
	夏の風物詩…出来事・風景			
	出会いと別れ…感情	感情表現		
	戦争と平和…思想・社会問題	抽象的概念の表現		
対極の動きの連続	走る一止まる	水平移動、スピードの変化	変化のある動きの連続「ひと流れの動き」からイメージ・主題につなげる	<b>ひと流れ</b> 動きのフレーズ感
	跳ぶ一転がる	垂直移動、高さの変化		<b>ダイナミック・思いきり</b> 精一杯大きく動く
	伸びる一縮む	身体意識、大きさの変化		
	捻る一回る	回転、身体の面の変化		<b>メリハリ</b> 違いを明確に動く
	保つ一崩れる	緊張一弛緩、力性の変化		
	見る一見る一見る	空間延長		
多様な感じ	激しい、力強い、躍動的な	動きの質（複合要素の変化） 速 さ：速一遅 強 さ：強一弱 形：直一曲 大きさ：拡大一縮小 方向性：垂直一水平	質感のある動きからイメージ・主題につなげる  感情を伴った主題を表現する	<b>動きの質</b> 質感の違いを意識して動く
	静かな、弱々しい			<b>なりきり・感じを込めて</b> そのものの気持ちに
	鋭い、素早い、固い			
	やわらかい、流れるような			
	重々しい、安定した			
	軽快な、賑やかな			

				なって動く
群 (集団) の動き	集まるー飛び散る、くっつくー離れる	集合ー分散	群(集団)の構成を工夫してイメージ・主題を強調する	<b>感じ合い</b> 相手の動きに呼応する
	大回りー小回り	空間の広がり、移動軌跡		<b>対応・対比</b> 相手との関係を強調する
	個一群、主役と脇役	人数の変化、関係性の表現		
	2人の関係、対立する群	対応する動き、対立する動き		<b>群構成・空間構成</b> 群・空間の変化を工夫する
	群像	高さの変化、構造的表現		
	ユニゾンーカノンーランダム	時間性的変化		
ものを使う	新聞紙、布	自在な変形、多様な軌跡	もの(小道具)を何かに見立てて表現する・動きを強調する	<b>空間延長</b> 身体ゾーンを広げる
	ゴム、ロープ	引っ張る、空間の延長		<b>全身で動かす</b> 全身で動きを伝える
	傘、扇子	振る、回す、身体の延長		
	椅子、跳び箱	乗る、跳び越す、高さの効果		
ストーリー はこびと	はじめなかーおわり	中核を大切にまとめる	主題を効果的に展開する	<b>はこび</b> 主題を展開する
	序破急	徐々に大きく・激しく・盛り上げる		
	起承転結	変化のある展開		<b>ストーリー</b> ドラマティックな展開
	物語	大切な場面を選んでまとめる		

全国ダンス・表現運動授業研究会「ダンスの授業」(2011)より転用

## 11 引用参考文献

青木幹勇(1989)『いい授業の条件』 国土社

細川江利子・寺山由美・羽岡佳子(2008)舞踊におけるクリエーション・スキルに関する研究. 現代舞踊家による即興表現から作品創作への展開を事例として. 日本女子体育連盟学術研究 24. pp.41-54

松下清子(1994)体育科教育におけるダンスの意義. 日本教科教育学会誌. 17(3). pp.137-142

三浦弓杖(1982)なぜダンスの授業はおもしろくないといわれているのか-不人気の原因と問題-. 体育科教育 6月号 :pp.14-16

文部科学省(2008b)中学校学習指導要領解説保健体育編

村田芳子(1987)表現運動. 小学校新しい体育の考え方・進め方(宇土正彦編). 大修館書店

村田芳子(1998)最新楽しい表現運動・ダンス. 小学館

中村恭子・宮本乙女・中村なおみ(2011)「ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編. 大修館書店

酒向治子・永田麻里子・猪崎弥生(2014)中学校女性体育教員のダンスに対する抵抗感と羞恥心について. 岡山大学大学院教育学研究科研究集録 第155号 pp.109 - 113

高橋和子(2007)即興表現「群像」における自己概念の変容に関する研究. 日本女子体育連盟学術研究 24. pp.27-40